

研究員 の眼

韓国でもマクロン、マリンのような若い首脳は誕生するだろうか？

生活研究部 主任研究員 金 明中
(03)3512-1825 kim@nli-research.co.jp

韓国の保守系最大野党「国民の力」の新しい代表に 36 歳の李俊錫（イ・ジュンソク）氏が選出されてから、来年 3 月に行われる大統領選挙に対する関心が高まっている。若者の多くは、李俊錫氏が大統領候補になった場合、彼を支持したいと考えているだろう。

しかしながら、残念なことに 36 歳の李俊錫氏は大統領候補になることはできない。1962 年に制定された現行の憲法では、大統領の出馬資格を満 40 歳以上と規定しているからだ。これに対して与野党の若い議員を中心に、満 40 歳以上に定められた大統領選挙の出馬年齢制限を廃止すべきだという主張が続いている。

さらに、与党「共に民主党」の李洛淵（イ・ナギョン）元代表は 6 月 4 日に自身の Facebook に「既成世代が青年を排除し、大統領選挙と政治を独占しようとするのは過去の独裁政権の横暴と何ら変わらない。このような考え方を維持しながら「青年のための政治を述べるのは偽善である。（中略）国家の未来ビジョンについて争う大統領選挙を既成世代の専有物にすることは認められない。」と主張した。

では、海外はどうだろうか。フランスでは大統領の出馬資格に年齢制限を設定せず、18 歳以上なら大統領選挙に出馬することができる。2017 年には現在のエマニュエル・マクロン大統領が 39 歳という歴史上最も若い年齢で大統領に当選した。

また、アルゼンチンでは 30 歳以上、メキシコ、アメリカ、ブラジル等の国では 35 歳以上の人が大統領選挙に出馬できるように定めており、韓国よりも年齢基準は低い。一方、イタリアでは 50 歳以上と韓国より年齢制限を高く設定している。

一般的に、大統領制より議員内閣制を採択している国の方で年齢基準が低い。フィンランドのサナ・マリン首相は 2019 年 12 月に 34 歳という世界最年少で首相に選出された。そして、ニュー

ジーランドのジャシンダ・アーダーン首相も 2017 年に 37 歳という若さで首相に就任した。

日本では戦前、伊藤博文氏が 44 歳（1885 年）、黒田清隆氏が 47 歳（1888 年）、近衛文麿氏が 45 歳（1937 年）と 40 代に首相に就任したことはあるが、戦後は 40 代の首相は現れていない。

オーマイニュース（韓国で設立された市民参加型インターネット新聞サイト）が 6 月 1 日に全国の 18 歳以上の 500 人を対象に実施したアンケート調査結果によると、「大統領選挙に出馬できる年齢基準を 40 歳未満に調整すべきだ」という議論」に対して 50.3%が「共感する」と回答し、「共感しない」の 44.8%を上回った。

年齢階層別に「共感する」と回答した割合は 20 代（18 歳と 19 歳を含む）が 62.8%、30 代が 57.2%で全体平均より高かった。一方、50 代は「共感しない」が 58.5%で、年齢基準を引き下げることに反対する人が多いことが分かった。

このようなアンケート調査の結果によると、大統領選挙に出馬できる年齢基準を引き下げることにに対して半数以上が賛成する立場を見せている。しかしながら、これを実現するためには憲法を改正する必要があり壁は高い。文政権は 2018 年に改憲案を出した時に「被選挙権の年齢制限に関する条項を憲法に入れることはまれである」と該当条項の削除を推進したが、その後改憲に対する議論はまったく進んでいない。

しかしながら、最大野党「国民の力」の新しい代表に 36 歳の李俊錫氏が選出されたことにより風向きは大きく変わった。若手議員のみならず、ベテラン議員や保守系の議員の中でも満 40 歳以上に定められた大統領選挙の出馬年齢制限を廃止すべきだという意見が出ている。はたして、2022 年 3 月の大統領選挙で韓国のエマニュエル・マクロン、あるいはサンナ・マリノが誕生するのか、今後の動きに注目したい¹。

¹ 本稿は、「韓国政治は若返りが主要な争点に」ニューズウィーク日本版 2021 年 7 月 2 日に掲載されたものを加筆・修正したものである。https://www.newsweekjapan.jp/kim_m/2021/07/post-40.php